

< 設計趣旨 >

民家の知恵を生かした計画

当地域内には、多くの典型的な田の字型プランの農家住宅や伝統的な蔵も多く残っております。これらの地域の特性と知恵を生かした計画としました。

1. 配置計画：北側に屋敷森、南側に雑木林の庭をイメージし配置しました。また、家庭菜園を設け、水・緑・土と親しみながら生活ができる計画としました。
2. 平面計画：矢板の自然を楽しみエコライフが出来る形として「土間のある家」を計画しました。開け放して一つながりの空間として回遊でき自由な使い方ができるプランとします。また、構造壁の間仕切り壁は極力少ない計画としプランの自由化が出来る建物としました。
建物外周部を外部環境に対するフィルターとして捉え、光と熱と風をコントロールします。
3. 立面計画：隣接する道の駅と調和した計画とします。大屋根と下屋が重なりあい互に寄り添うような形状としました。
4. 構造計画：伝統的な工法による丈夫な骨組（大黒柱、差し鴨居、渡り顎）を採用し。また、壁には杉板を落とし込み、耐久性と気密性能を向上させ、校倉工法を現代に甦らせました。
5. 通風計画：夏の通風対策に格子戸を活用します。木製サッシの内側に格子の建具を設置し、防犯性、通風を確保しました。蔵の通風をヒントに屋根の下部の空間を空気が通りぬける工法とし夏の暑い屋根面の熱が室内に伝わりにくい構造としました。
6. 施工計画：民家の家づくりには、地域の人々がみんなで協力し合う「結」がありました。オール矢板・オール栃木を目指し、地元の素材で地元の職人・工務店・林業家・木工家具作家など、多くの人の顔や手仕事が伝わる建築とします。そうすることで愛着がわき、トレーサビリティの向上にもつながり定期的な維持管理にも配慮した施工とします。また、素材も人も地域の資源との考えにより、関係者全員による作業（セルフビルド）を計画します。

自然再生エネルギー活用について

持続可能なエネルギーを徹底活用した計画としました。

・ハイブリットソーラーシステムの採用

太陽エネルギーを、光、熱を共に利用できるようにハイブリットソーラーシステムを採用し、2階屋根太陽光発電設備の設置し、また1階屋根には太陽熱集熱器を設置し床下の蓄熱槽に太陽熱を蓄熱し暖房負荷軽減をし、また給湯用熱交換器とお湯取りエコキュートにより熱交換し給湯負荷を軽減します。

・雨水利用システムの設置

・バイオマスエネルギーを利用する暖房器具（薪ストーブ）を設置

- ・自然の風を有効に取り入れる計画

エコライフスタイルと住まい方について

家と庭が一体となった生活空間を創造し、エコライフスタイルが確立できる計画としました。

- ・雨水タンク利用と雨落しによる打ち水効果

雨水タンクより雨落しの大谷石の砕石敷き側溝に水を流し、打ち水効果を利用し夏の風をクールダウンし、やさしい風が室内に流れる計画としました。

- ・家庭菜園の設置

家庭菜園を設け収穫する喜びや楽しみを感じることが出来ます。また、自家製の野菜を薪ストーブで料理することが出来楽しみがひろがります。

- ・電気自動車用スペース

駐車スペースの土間は和室と連続することにより、一体的な利用が可能としました。

- ・土間空間の活用

半屋外的な土間空間は多目的に利用することが出来るアクティブな空間です。

野菜等の種分け、乾燥・自転車やスキーのチューンナップ、工作等の作業としての場。また、菜園での作業の合間の休憩の場、近隣とのお茶のみ話の場となります。外部作業やスポーツ等で汚れたまま直接土間を通して洗面所、浴室に入れる計画としました。